



活水高等学校
活水中学校
No.30
2023年
3月6日



活ける泉

年間聖句
あなたがたは、神のさまざまな恵みの善い管理者として、その賜物を生かして互いに仕えなさい。
ペトロの手紙一4章10節

活水高等学校第75回卒業式式辞

活水高等学校 校長 大岩 厚

活水高等学校を卒業される皆さん、ご卒業まことにおめでとうございます。

私は、卒業生の皆さんと、この高校3年間で共に過ごしてきました。新型コロナウイルス感染症の流行の為、思い通りにいかないことがたくさんありました。私自身、皆さんや周りの方の安全を考えて、活動中止や制限について決断をせざるを得ないことが多くあり、とても心苦しい思いをしました。しかし、そんな中でも、皆さんは自分の健康を管理しながら、できることに力を注ごうと、いろいろなことに努力してきましたね。物事に誠実に取り組む皆さんの姿を見られる事は、とても幸せな事でした。

皆さんは、活水高校の3年間で、たくさんの事を学んで成長し、高校生活でコロナ禍を経験していない上の世代にはない力を身につけています。そのような皆さんを、私は誇りに思います。

さて、皆さんがこれから踏み出す世界は、多くの問題を抱え、決して楽観できる状況では無いかと思います。では、そのような社会の中で、どうすれば希望を持って幸せな人生を歩むことができるのでしょうか。そのヒントとして、三つの事をお話したいと思います。

一つ目は、乗り越える、ということについて。

私たちがよく歌う讃美歌に471番「勝利をのぞみ」がありますね。元になった歌は「We Shall Over Come」1960年代に、アメリカの公民権運動を象徴する歌として知られています。

皆さんが望む勝利とは、どんなイメージでしょうか。相手を打ち負かす事、あるいは、目の前の壁を壊して取り除く事、のような考え方もありますが、この歌の元々の意味で考えると、Over Come、つまり、壁を乗り越えていくのだ、と受け取る事ができます。試練や問題という壁を前にした時、それを乗り越える方法に正解はない。いろいろな取り組み方で壁を乗り越えて進む事が勝利であって、壁を壊す事や取り除くことに執着しない柔軟さが大切だと思います。

「神様は、あなた方を耐えられないような試練に遭わせる事はなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます。(1コリント10:13)」

二つ目は、「あなたが、あなたであること」が大切である、という事。

教会学校で、子ども達とよく歌う讃美歌の歌詞に、「どんなに小さい小鳥でも、神様は育ててくださる。名前も知らない野の花も、神様は咲かせてくださる。よい子になれない私でも、神様は愛してくださる。イエス様がそのように語っておられる。」という教えがあります。

世の中の価値観と自分の価値観が合わずに悩む時、物事が思い通りに行かず前に進めないと落ち込む時、ひとりで苦しみを抱え込んでいると思う時、どんな時であっても、イエス様は私たちと共に人生を歩んで下さっています。「あなたが、あなたであることが大切だよ。」と私たちに勇気付けてくださいます。あなたは、あなたらしく、イエス様と共に誠実な歩みをしてください。

最後に、活水高等学校の名前の由来となった「活ける水」の教えです。

「わたし、輝く。ともに、輝く。」、活水高等学校が皆さんと共に大切にしてきた教えが、このキャッチコピーにも表現を変えて示されています。そして、イエス様は大切な教えとして、「隣人を自分のように愛しなさい(マタイ22:39)」とされています。

わたしが輝く事ができるよう、誠実に学び、様々な経験をして自らを高め、得られた宝物を心にしっかりと蓄えてください。「あの人に力を貸してあげたいな。あるいは、こんな時にあの人がいってくれたらなあ。」周りから、そのように思われる人になって欲しいと思います。

そして、友人や隣人を大切に、違いを認め合い、自分が蓄えたものを周囲や社会に分け与えていく。皆さん一人ひとりが、〈活ける泉〉のみなもととなって、ともに輝いてください。

皆さんが幸せな人生を歩むことができるよう、そして、皆さんの歩みの上に神様の豊かな恵みがあるようお祈りして、校長の式辞といたします。



高校卒業生 巣立ち行く

2月15日(水)、第75回卒業式がチャペルで行われました。保護者等のご出席のもと、礼拝の形で式が進み、卒業生一人ひとりに卒業証書が手渡されました。



感謝の辞 第75回卒業生代表 尾崎由芽

今日、私たちはこのチャペルで卒業の日を迎えました。

私たちの高校生活は入学した時から、常に新型コロナウイルス感染症と隣り合わせでした。私たちは、楽しみも目標も失い、どこにもぶつけないことのできない苛立ちや不安を抱えていました。そんな中でも、自分たちなりに考えて楽しみ、行うことができた学校行事は全力で取り組みました。



私は6年間バレーボール部に所属し、その6年間で「継続して努力をすること」「誰かのためになること」の大切さを学びました。思うようにいくことは少なく、たくさん悩み、涙を流しました。それでも私がここまでくることができたのは、支えてくれたバレー部のみんな、友人や先生方、そして家族の存在があったからです。

「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」これは私が好きな聖書の御言葉です。

多くの時間をともに過ごす中で、自分の悲しみなのに友人から励ましてもらうことで心が軽くなり、また、喜んでいる友人を見ると私もうれしくなるという経験を多くしてきました。私たちの3年間は、物理的に密になることはできなかったかもしれませんが、心は強く結びついていきました。

私たちはこれから、聖書を通して学んだ、隣人愛を忘れず、夢に向かって進んでいきます。進む道はそれぞれ違いますが、この活水で学んだことを糧に、置かれた場所で美しく咲くことができるよう、しっかりと歩いていきます。(要約:坂口仁美)

魂ゆずり

高校卒業式の中で、活水の伝統行事である「魂ゆずり」が行われました。魂ゆずりは、創設者ラッセル先生の願いを表わす儀式として第2代校長のマリアナ・ヤング先生が発案して始めたもので、校名の由来であるヨハネによる福音書4章14節「わたしが与える水を飲む者は決して渇かない。わたしが与える水はその人の内から湧き出し、永遠の命に至る水がわき出る」に基づいています。



活水で学ぶ者一人ひとりが、この「活ける水」を汲みとって、新たに生き活きとされ、さらにその「活ける水」を周囲の人々に与える者になって欲しいという創設者の思いが、手桶(たおけ)によって象徴されています。この手桶は先輩から後輩へと代々譲り渡されてきました。その年の卒業生が自分たちの思いを2色のリボンに託して、結び加えて譲り渡すのが慣わしとなっています。

今年度の卒業生は「純潔」を表す白いリボンと、「広い心」と「隣人愛」を表す空色のリボンを結びました。神様が創造された空のような広い心を持ち、相手を思いやり、自分のためだけではなく隣人のために生きる人になってほしいとの願いが込められています。(三河悠希子)

卒業礼拝

卒業式の前日、2月14日に高校卒業礼拝が行われました。この日は、初めて、高校生全員がチャペルに入りました。コロナ対策のために左右を1席ずつ開けての着席でしたが、この3年間で高校生全員がチャペルに入るのは初めてのことでした。卒業していく高校3年生のためにみんなで讃美歌をうたい、祈ることができました。聖書の放蕩息子のたとえ話から、「人生のどん底で誰を思い出すか」というテーマで説教がなされ、「みなさんは、これから70年くらい生きていくことになる。大変な日も、人生の最悪の日もあると思います。でも、もうだめだと思うことがあれば、神様を思い出してほしい。必ずあなたと一緒にいて、必ずあなたを助けてくださいます」とのメッセージが語られました。



(三河悠希子)

中学卒業生に贈る言葉

中学三年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。毎日の学校生活や行事の中でたくさんの思い出ができたと思います。泣いたり笑ったり喧嘩したりと忙しい日々だったのではないのでしょうか。特に担任として印象に残っているのは、感情的に自分の思いや考えを涙ながらに訴えてくる情熱的な姿です。高校生になっても自分らしさを大切にして、豊かな学校生活を送って欲しいと思います。(津留美幸)



高I探究発表会

2月28日(火)の探究の時間で来週の発表会の予選会を行いました。23グループが3教室に分かれて、それぞれ半年かけて調査したことを5分間のプレゼンテーションとその後、質疑応答をしました。どの班もパワーポイントを使ってよく調べ、わかりやすく説明をしていて、生徒、教員で投票した結果、「長崎の水害を防ぐ取り組みと対策」「西九州新幹線の利用者増加を目指す長崎オリジナルの旅行プラン」など長崎を取り巻く環境について8班が発表会に進みました。

(平野智也)



高Iで、女子大との連携パネルディスカッション

2月8日(水)6校時、活水女子大学4年生によるパネルディスカッションが行われました。英語学科の小川さんは航空関係、日本文化学科の傍島さんは公務員、食生活健康学科の池田さんは管理栄養士として大学病院、子ども学科の川口さんは養護教諭にそれぞれ内定しており、自分の体験談を交えながらお話をいただきました。生徒たちも刺激を受けたようで、「今のうちに、たくさんの方に挑戦したいと思った」、「仕事は自分がやりたいこと、好きなことを第一に考えることが大切だとおっしゃっていたので、自分がやりたいことを見つけていきたい」、「楽しい大学生活を送るためにも、今のうちに勉強を頑張りたいと思った」などの感想が寄せられました。あと2年間、悔いのない高校生活を過ごしましょう!(古田雄介)



高II探究発表、ユニークなテーマで

2月8日(水)、高II「活ける水探究大賞」発表会の選考会を実施しました。これは、昨年9月から半年間、自ら設定したテーマ別に45班に分かれ探究活動に取り組んできた成果発表会です。どの班も活きたユニークなテーマで探究活動に取り組むことができました。選考の結果、下記のテーマで発表した10班が、3月8日(水)の「活ける水探究大賞」発表会の代表に選ばれました。(野田定延)

- 「NATO vows to guard 'every inch of territory' from Russia, China threats」
- 「The Future of the European Union」
- 「日本の臓器移植の現状と私たちにできること」
- 「音と記憶の相関性」
- 「人の心理について～女子高生はどのような状況から嫉妬がうまれるのか～」
- 「多国結婚式プラン～もっと自由な結婚式の形を～」
- 「外見を与える影響」
- 「ラピュタから学ぶ人を思いやる気持ち」
- 「K-popアイドルが若者に及ぼす個性の大切さ」



高IIダンス発表会、クラスの個性を豊かに表現

2月1日(水)6校時大体育館で高IIダンス発表会が行われました。今年も、基本作品の基本6番と3分間の創作ダンスで構成し、ダンス委員を中心に作品をまとめ、発表しました。Aクラスは、元気でまとまりのある作品に、Bクラスは、韓国ダンスを取り入れた可愛い作品に、Cクラスは、2曲使用し、Cクラスらしい作品に、Dクラスは、AKBの曲に合わせた楽しさ溢れる作品に仕上げました。(向井杏奈)

結果は、次の通りです。

- 1位 Aクラス
- 2位 Dクラス
- 3位 Cクラス
- 4位 Bクラス



今月の聖句

「いかに幸いなことか 神に逆らう者の計らいに従って歩まず 罪ある者の道にとどまらず 傲慢な者と共に座らず 主の教えを愛し その教えを昼も夜も口ずさむ人。その人は流れのほとりに植えられた木。ときが巡り来れば実を結び 葉もしおれることがない。」
(詩編1編1節～3節)

小学校の頃、発芽の3条件(水、空気、適温)と成長の5条件(水、空気、適温、光、肥料)を習ったことがあるでしょう。発芽の時に必要なもの、成長に必要なものは少し異なり、光と肥料がなければ、芽が出ることはできても、成長できないのです。その時に必要なものが、発芽と成長という植物の成長段階で異なります。私たちも同じです。流れのほとりに植えられた木には、神様は太陽を昇らせ、雨を降らせて川の流れを与えてくださいます。川は水も与えてくれるし、時として必要な養分を含んだ土を運んで来てくれます。神様が与えてくださる肥料、養分はなんのでしょうか。神様の恵みはたくさんありますが、神様の言葉もその1つです。神様の言葉で心にたくさん栄養を蓄えて、新学期も成長していきましょう。(三河悠希子)

21	20	18	17	16	15	13	11	10	9	8	7	4	3	2	1
火	月	土	金	木	水	月	土	金	木	水	火	土	金	木	水
春分の日	特進春期合同自学会(24日)	音楽コースファイナルコンサート	終業式	球技大会	フックスがけ	40分授業	特進土曜課外	中学卒業式(高校自宅学習日)	中学卒業礼拝(高校通常授業)	高II探究大賞発表会	高I探究大賞発表会	英語科発表会 特進土曜課外	高校2年自宅待機日	中学2年自宅待機日	高校修学旅行(2月27日～3月2日)

3月行事予定



大会等成績

- 〈中高吹奏楽部〉
- 長崎県高等学校文化連盟表彰
- 〈中学吹奏楽部〉
- 九州アンサンブルコンテスト
- 金賞(クラリネット四重奏)
- 〈高校吹奏楽部〉
- 九州アンサンブルコンテスト
- 金賞(フルート三重奏)
- 〈英語〉
- 活水女子大学 高校生のための英語プレゼンテーションコンテスト
- 第3位 戸村楓
- 第5位 山田佳音